

あけましておめでとう

「ございます。」

今年はずいぶんです。市民の中から未年生まれの七人の方々に「新年の抱負」をうかがってみました。

## 人生観

北村久義(四日市場)  
大正八年生まれ



日頃、余り年令を気にしない私だが、六十歳の誕生日を迎えたと意識すると、人生の過去と将来のことまで、色々と考えるものである。近年は人間の平均年令が延びていると云われているが、病氣や災難で短命に終る不幸な方も、ずい分多い様に思われる。誰でも健康でありたいと欲しても、望みどおりにならない。その中で、私も兎に角、病の体験もなく、今日まで社会のために、フルに使って頂いた、我が身の幸せをしみじみ感ぜずにはいられない。誠に有難いことである。

昔なら「長寿」「長命」と称して祝福されたものであるが、現在の世相は必ずしも、そうではない。不幸な人もある様に思える。そう云う家庭には、親が長命なるが故

に迷惑と思う人さえあるのは、めずらしい話ではない。

今、私はおじいさんと呼ばれても実感は沸いてこないが何時までも老人にならぬ保証は無い。何れ仲間入りもさせて戴く時が来るであろうから、もう少し私の考え方を述べてみたい。

人のため、世のためにつくして、そして我が子の成人を唯一の楽しみに、身も心もつくしきり、人生のつかれで、しれくちやになつたその老体が、我が意のままにならぬまで命ながらえても、何時までも此の世にいたいという何かよろこびが無ければ、真の幸せとも、長寿とも云えない。確かに健康は第一だが、己の望みどおりにならぬとすれば、それに替るものは人のやさしい思いやりの心、云わば人情一つが生きる杖とも柱ともなる。又、人の世に子供の成人を頼むぬ親はない。子供のためには身を惜しまずと云う親心を、真実と云うのであるが、その真実を無にしたら、恩義につきるは道理である。

「子供成人さして親は楽しみ、子が成人して親は大切」楽しみ楽しみと云う往復の楽しみがあつてこそ、長寿の意義と真の長命としての価値観を味うことが出来るのではなからうか。一方、人は分らぬことを運命とか運勢と云っているが、実は、己自身がまた種が芽ばえたものである。そういう因果の法則を理解出来たら、如何なる

境遇の中でも、楽しみはいついつまでも続くものであると信ずる。むずかしい様であるけれど、人には寛大にして己を責めてくらす者の前途に敵はない。

その様な人生観を、多くの人が持つて欲しいものである。

## 二度目の羊年を迎えて

滝口綾子(公務員)  
昭和30年生まれ

私にとって二度目の羊年を迎えた訳ですが、現代社会の中で痛切に感じられるのは、世は不況時代であるということだと思います。どこもかしこも不況、不況の中で、



私達公務員にとっても、その波は決して穏やかなものではありません。

それを乗り越える為には、確かな状況判断、懸命な努力、そして、勤勉であると思います。

こういう時代にこそ、「働かざる者食うべからず」という言葉が通用するのではないかと思います。

私生活の面においても、努力と勤勉は欠かせないものだと思います。年令を問わず、常に新しい目

的を持つて、前進していくことは素晴らしいことでもあります。どんな小さな目的にでも、いつしうけんめい努力しているという姿勢は美しく見えるものです。又、努力をすることによって、精神的にも安定した、ゆとりのある過ごし方が生まれてくるのではないのでしょうか。

一九七九年、輝かしい未来への旅立ち、明日からのきびしい社会の中で生活する私達を待ちかまえているのは、いったい何なのでしょうか。

夢があり、希望があり、そして不安がある、種々多様な感慨が入り混じって迎えた新しい年の始まり、一日一日を悔いなく過ごすことができそうです。努力していきたいと思っています。



広瀬英雄(上谷四)  
昭和18年生まれ(上谷四)

## 住み良い都留市建設のために

私は、昭和十八年の羊年生まれであります。都留市には四十一年から住んでいるので丸々十二年が過ぎ去りました。

仕事の関係で日本の処々を歩きますが、都留という町は本当に良い町だと思えます。言葉では表現

出来ない何となく肌で感じる良さであります。これが忘れかけている城下町の面影というものかも知れません。

昭和十八年生まれという、敗戦による物資不足の経験を経験しながら記憶に残す最後の年代であると思います。その我々が、戦後二十余年を経て、子供を育てる時代になった現在、今の日本は、あまりにも思われています。それが子供に對し、あまやかしになり、暴走族や中学生はおろか小学生におよぶ非行化の要因であると思えます。その様な社会を、少しでも良くしていくのは昭和生まれが主体

となりつつある社会の中堅となる我々の任務であると思えます。

私が人合している青年会議所では、今まで市民病院、ゴミ問題その他地域住民とつながりのある活動を続けて来ておりますが、今年からは知事、県議、市議と選挙の年であるという事を考え、一番身近な市議会議員選挙の立合演説会の実施を働きかけ全国的にも有名な物量に左右される都内選挙を考えなおし、金が出来たら、暇が出来たらから選挙に出ようという様な人を出さぬ様、住み良い都留市建設の為に少しでも役立つ様、自分の責任を果たしたいと思えます。